

事業期間 H20 ～ H22

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）

2. 事業名等

3. 事業の内容等

事業の目的及び対象

4. 予算・決算の状況

5. 実績及び達成目標等

達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値[illegible]

総合計画／実施計画書 兼 事業事業評価シート

評価対象年度 H19 年度

評価実施年度 H20 年度

担当部局	部局名	教育委員会
	課室名	生涯学習課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	4	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	市民が文化財を学び郷土愛を育むことで、過疎化、少子化の抑制に役立つから。また、他市町村においても、地域づくりの核を文化財に求めるところも多く、本市でも重要な地域資源としてこれらに興味を示し活用する意図のある市民は重要な人材となりうるから。				
行政の 関与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	5	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	本事業のもたらす効果は遅効性で公共性が高いため、利益を優先とした民間でサービスを提供することは難しい。ただ、科学的な専門分野において民間と協力し、より深い知的欲求に応じるサービスは有効で検討の余地があるため。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	これまでの市民を対象とした講座は全て参加料無料で行っているが、参加者からも受益者負担については、適正な対価を支払いたいという申し出もあり、今後検討する必要があるため。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	参加者数は確実に増えているが、それらの方々が自主的、主体的に新たなグループを作って活動していくまでには至っていない。また、参加者の固定化が見られ、その年齢層も壮年以上の世代が中心であるため、より幅広く参加していただくよう工夫が必要だから。				
事業の 予算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	4	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	多くの経費を要しない事業ではあるが、その効果をよりよくするためには講師を呼ぶ回数を増やすなど事業の拡大が必要であるため。				
人 体 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	4	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	他業務との兼ねあいの中で、本業務に係る人員が手薄になっている現状があり、市民に対し満足なサービスを提供できないため。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	今後も市民のニーズに応えられるよう体制を整え、事業を推進していかなければならないから。				
その他、特記事項		事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。			
これまでの事業展開を振り返ると、市民の要望は多角的で専門性の高いものとなる可能性がある。そして、そのニーズに応じて、事業は徐々に拡大する傾向にある。そのため、経費的にはさほど変わらないが、講師ができるような人員の配置が必要になってくる。 また、文化財愛護団体の構成員は高齢化が進み、若年層の取り込みが喫緊の課題となっている。					
部 長	課 長	班 長	担当者		
			内線 3843 E-mail @bungo-ohno.jp		